

ひまわり

24号

太陽に向かって伸びていくひまわりの様にそれぞれの目標に向かって行けるように

題名：稲村美也子さん



社会福祉法人 宮城県障がい者福祉協会
障害者支援施設 ふぼう

ふぼうの観天望気、 そして間切りの大航海

施設長
佐藤賢一

観天望気とは、自然現象や生物の行動の様子、経験則などから天気を予想するものです。いってみれば自分の周囲のことに五感を全部働かせて天気を予測するものです。

「ツバメが低く飛ぶと雨」や「朝虹は雨、夕虹は晴れ」は誰でも一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。

これからのふぼうに思いをさせ、観天望気で予測してみようと思います。

価格高騰・物価高で豪雨

ふぼうはオール電化の施設なので、二度の電気料金値上げにより、月に約130万円のダメージを受けています。利用者、職員全体で節電に取り組み、電気消費量を大幅に減少していますが、さらに物価高騰の追い打ちでさまざまな影響が開始しました。契約途中の委託業者からも値上げの相談があり、多くの

物品がいつの間にか20〜30%程度の値上げ価格になっていく状況に驚いていると、はがきや切手まで同じように値上げしてしまいました。この先どこまでいくのだろうと心配ですが、賢い支出を心がけても相当な影響が出るものと考えています。

感染症の流行で大雨

コロナウイルスが感染症法上「第5類」に引き下げられしばらく時間が経ちましたが、世間一般と福祉施設の考え方の違いがより広がったような気さえます。それは、ふぼうのように重度の障害を持たれた方が多く生活している場合、より明白です。生活する歩幅の違いを感じると言えばよいでしょうか。毎月、利用者との語り合いで感染症対策についても意見をいただいています。やはり利用者も「自由に出かけたいが、コロナは

怖い。」と話されます。感染リスクを押さえながら、利用者の要望にどのように応えられるか。利用者には、「都度、協議することは約束するので、申し訳ないがあきらめずに要望をあげて欲しい。」と伝えており、職員も様々なチャレンジをしてはいますが、近隣地域の感染状況により大きな影響を受けてしまいます。

2024国の指針(障害福祉計画)で風雨

多岐に渡る計画内容のうち、気になったのは「集団で生活すること」への意見出しの部分です。「地域移行」「脱施設化プログラム」という言葉は聞いたことがある方も多いと思いますが、「定員削減」も含め、今回は2026年までの数値目標も出されました。ふぼうに当てはめて考えれば、それぞれ3〜4人になります。近隣市町村の福祉計画にも「入所



施設からの地域移行」として数値を掲げて明示されています。「この入所施設はふぼうのことでですか？」と質問すれば良かったかな。とにかくふぼうのような入所施設への風向きは向かい風になりました。

全国的な介護業界の人材不足で暴雨

職員採用の募集をかけても反応がありません。近隣の福祉施設では東南アジアに人材を求め、数年前から現地とのパイプ作りをしているとのこと。全国や東北ブロックの勉強会でも、いくつかの分科会のテーマの一つは「外国人労働者をどうやって迎え入れたか」等の事例発表が当たり前になってきました。細りつつある労働力の確保と持続可能な働き方の検討が必要になっています。

職員の健康診断で雷雨

健康診断で二次健診の指示をもらう職員が続出中。生活習慣病に関わるものがほとん



どで、対策が急務です。

会議内で、「7200kcal=1kg」「7200kcal+30日=240kcal」今の生活をベースに一日240kcalを食べないか消費するかを継続すれば、1か月で1kg落とせる」「継続しやすい例として、1200kcalの運動と1200kcalのカロリーコントロール」と紹介したのですが、職員は取り組んでいるのだろうか。みんな健康でいて欲しい。

さて、ふぼうの観天望気は晴れ間が見えないどころか、かなりの悪天候しかも逆風という予報になりました。しかも他にも不安材料は数多あります。

このような状況でふぼうという船をどうやって前進させるのか。

「間切る」という言葉をご存じでしょうか。逆風に向かって帆船を進める操縦法ですが、波間を切るようにジグザグに船を操作する風読みと技術を要します。

ふぼうが前に進むにはこの「間切り」のように、判断、協議、対応を繰り返し繰り返し実行する粘り強さと職員同士の強力な連携が至要です。そしてその目的地は、どのような状況でも利用者に寄り添って支援していくこと、利用者が安心や楽しさを感じて生活できることだと思っています。

利用者をはじめ、ご家族、地域、関係者の皆様には、我々を見守っていただき、今後ともご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



ふぼうまつり 祭



| ふぼうまつり 祭 2023 | |
|---------------|-----------------|
| 開催日時 | 9月6日(水) |
| 10:00~10:45 | ふぼうお笑い ウルトラクイズ! |
| 11:00 | バイキング準備開始 |
| 11:30 | バイキングスタート! |
| 13:30 | フリーマーケット アンパンマン |
| 14:45 | フィナーレ |
| 15:30 | 終了 |

9月6日に「ふぼうまつり2023」が開催されました。急遽、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に、規模縮小にて執り行うことになってしまいました。

今年のまつりでは新しい試みで各職員の自宅にある不用品(新品未使用)を集めフリーマーケット(ふぼうマーケット)を開催しました。利用者の皆さんにはふぼうのオリジナル通貨を使い商品と交換してもらいました。お気に入りの商品を見つけた利用者さんの笑顔を沢山見ることができました。

次に皆さんお楽しみみの昼食。ここ数年は豪華弁当でしたが、今年は屋台をイメージしたバイキング形式で行いました。準備していたおかわり分の食材が残らなかった程盛況をいただき、「美味しかったよ」「楽しかったよ」と沢山の声をいただきました。

企画していた余興等は中止となつてしまい残念でしたが、利用者の皆さんの笑顔を沢山見ることができ嬉しかったです。

※今年行えなかった余興等はお蔵入りになるのか、はたまた来年に採用されるのか来年のお楽しみです。

ふぼうまつり実行委員長 樋口 喜英



今年の忘年会は、感染対策の制限のある中、利用者の皆様に少しでも旅行気分を味わっていただきたいとの思いからテーマを「ディズニールランド」にしました。利用者様、通所利用者様の方々と一緒に準備を進め、棟内を夢の国一色に飾りつけしました。

当日はディズニーの曲をBGMに昼食を食べました。お弁当には隠れミッキーや手形など様々な工夫が施されており、見て食べて幸せな気分になっていただきました。

会場入口ではキャストが出迎え、パークチケットが配られました。「行ってらっしゃいませ。楽しんで来てください。」と声をかけられた皆さんに自然と笑顔が見られました。

余興はプーさんとチップが登場しアトラクションがスタート。「ミュージックパレード」では、参加利用者様が美声を披露してくれました。続いて「魔女のいたずら」「ストッキングオブカリビアン」と続き、最後の「ハッピータイム」では、チケットの番号で景品が当たる大抽選会が行われました。限られた時間ではありましたが、皆さんを夢の国へお連れし楽しいひと時を過ごせました。

忘年会実行委員 高橋 朋子

日中活動



今年もさつまいも掘りをしましたが、収穫量が少なかったので焼き芋の代わりとしてスイートポテトを利用者さんと一緒に作りました。皆さん一生懸命にさつまいもを潰したり丸めたりしていました。出来上がりは生活上委員会主催の喫茶店で、好みの飲み物と一緒に食べ「美味しい」と素敵な笑顔が見られました。

また新たに映画上映会を始めました。月1回、2時間程度の映画を選んで鑑賞しました。「となりのトトロ」「僕のワンダフルライフ」「インクレディブル・ファミリ」を上映し、映画館とはいきませんが臨場感を味わっていただきました。

テイクアウトでは、食事を希望された方は恒例のお寿司と村田町の洋食屋リッキーズの中から好きなメニューを、軽食を希望された方は好きなケーキを選び、美味しく召し上がられました。

来年度からは新たに、喫茶店を日中活動の内容として取り入れます。普段味わえない飲み物を提供していきますので楽しみにして下さい！

日中活動・地域との交流・担当
高橋 悠菜

安全防災委員会



今年度の安全防災委員会では、例年通りの避難訓練に加え、村田移転後できずにいた不審者対応訓練を大河原警察署協力のもと実施しました。

不審者役の方がナイフ2本所持という危険度の高い状態で現れたのには驚きましたが、職員一同なんとか落ち着いて警察が来るまでの対応ができたと思います。

訓練の後には、警察の方々からの感想やアドバイスをいただいたほか、刺股の正しい使い方・不審者との距離の取り方なども学ばせていただきました。

何が起こるか分からないこの時代、災害に限らず、不審者やその他の危険から利用者の皆さんを守るべく、様々な事態に対応できるように今後も緊急時について考えていきたいと思っています。

安全防災委員会
佐藤 雄太

ドライブ外出



今年度も外出担当ではドライブ外出を企画しました。花見のドライブに始まり、夏は海、秋は紅葉など季節感を取り入れました。その他に、みちのく杜の湖畔公園も行先に追加して利用者さんに楽しんで貰いました。いい気分転換になってくれれば係も嬉しいです。

まだコロナウイルスに用心が必要なご時世ですが、来年度は特に希望が聞かれる買い物や食事を含んだ外出ができれば良いなと思っています。

外出外泊担当 志村 隼哉

排泄ケア講習会



「利用者さんに合ったオムツの当て方を学びたい」等の意見から、白十字株式会社協力のもと排泄ケア講習会を行いました。

職員が実際にオムツを着用し、違和感のないオムツの当て方を体験したり、パットの中にあるポリマーがどのようにして水分を吸収していくのかを見せていただきました。

その他、災害などの緊急時、限られたオムツしかない時にサイズが合わない利用者さんには大きめのオムツであればテープの付け方で代用ができることも教わり、参加された職員の皆さんからはとても勉強になりました。また講習会を開いて欲しいとの声も聞かれました。

衛生担当 日吉 ありさ

通所事業

コロナウイルスが5類移行後も、入所利用者の方々と接触を避ける制限は続いています

が、季節ごとの創作やホールでの運動を行っています。通所の活動室にはたくさんの方々の作品を飾り、廊下にも展示しました。職員や入所利用者の方々に見ていただく機会もあり、声をかけてもらうこともありました。今年の初め、活動室には鳥居・辰・獅子舞がお目見えし、さらに皆さんの願い事を書いた絵馬が飾られました。今後もみんなと楽しみながら、活動をしていきたいと思っています。

生活支援課地域班

佐藤千江
高橋朋子



日清医療食品 栄養士変更のお知らせ



日清医療食品

大浦 来未

この度、約9年半お世話になりました。白石市の不忘園様から異動になりました。白石市の不忘園だった頃に日清医療食品が業務委託開始されたから、大変お世話になりました。初めてのチーフ業務でご迷惑をおかけしたことも多々ありましたが、横山管理栄養士様や施設長、職員様、利用者様のサポートのおかげで成長することができました。在籍はなくなりませんが行事など関わる事がありますので、これからもよろしくお願ひいたします。長い間、本当にありがとうございました。



日清医療食品

齋藤なつみ

10月より後任チーフとなり早数ヶ月が経過しました。以前の事業所とは全く内容が異なります戸惑いも多く、サポートしていただきながら今日まで来ることができました。利用者様に美味しいと思ってもらえるようなお食事を出し続けていけるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

新入所利用者

令和5年9月1日

稲村美也子さん

令和5年12月1日

今野さちえさん



2023年を振り返って見るとコロナが5類に移行し世間にはコロナ前と同じ雰囲気が出掛けたかと思ふ様な年でした。ふぼうでもドライブ外出に加え新たにみちのく杜の湖畔公園に出掛け短い時間ではありますが、外の雰囲気を利用者様に楽しんでもらうなど少しずつ以前の生活に近づいているかなと実感しました。今年も利用者様が楽しんで生活できるよう職員一同邁進していきたく思います。あと私事ですが2月で30歳となりました。いつまでも小学生の様なわんぱく心で日々過ごしつつ又大人として一段と成長できるとなるといいなと思います。

機関紙担当 齋藤 和希

発行

社会福祉法人 宮城県障がい者福祉協会
障害者支援施設ふぼう

住所

〒989-1321
宮城県柴田郡村田町大字沼辺字一本杉1番地1

電話

(0224) 511-8831

発行日

令和6年3月1日

印刷

第二啓生園 印刷部